

会 議 録 (要旨)

会議名	田川市新中学校のあり方に関する審議会 第8回会議
開催日時	平成27年7月21日(火) 14時00分～16時00分
開催場所	田川市民会館 講座室1-1
出席者	(委員) 神谷委員、四戸委員、大宅委員、二場委員、兒島委員、中山委員 穂山委員、浦野委員、加治委員、森委員、財津委員、崎原委員 (事務局) 吉柳教育長、和田教育部長、小林学校教育課長、森本教育総務課長 山本生涯学習課長、永岡文化課長、樋口学校教育課長補佐 犬丸学校適正規模推進室長、大久保学校教育課主任

審議事項	審議内容
[審議資料1] 第1回住民説明会の実施状況	<p>【事務局の説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回住民説明会を市内8校区で開催し、延べ440人の参加があったので報告する。 ・ 来場者の反応や意見を集約するため、会場でアンケート調査を実施した。質問事項は、①中学校が直面している課題の説明はわかったか、②中学校再編の目的の説明はわかったか、③再編に関して意見を求める(自由記述)の3つとした。 ・ 説明会で出された主な質問や意見と、アンケートの自由記述を4つの視点から集約した。 ・ 各校区での反応なども踏まえて、委員の意見を伺いたい。 <p>【委員の質問・意見】</p> <p>① 金川校区では、今の中学校区を残してほしいという意見があった。校区活性化協議会の祖父母世代は、子どもたちの人間関係が中学校から変わると地域で子どもたちを見守っていきことができなくなるという不安があると思う。各中学校は、それぞれの校区の祭りや行事に配慮して授業を組んでいるが、再編すると子どもたちが地域行事に参加ができなくなることも心配している。</p> <p>② 校区活性化協議会は、中学校区単位となっていることから、中学校再編でコミュニティ活動が大きく阻害されるのではないかと心配している人もいる。教育委員会は、再編で地域コミュニティが壊れることがないように、小学校は今回の審議の対象としておらず、当面は小学校区は現行通りとする方針である。校区活性化協議会の枠組みのルールを部分的に工夫して、コミュニティが維持されることを見通せる形にする必要があるのではないか。</p> <p>③ 再編しても、地域コミュニティを維持できるルールを作っていけば、校区活性化協議会を維持していくことに問題は生じないと思う。不安になる要素はないのではないか。</p>

審議事項	審議内容
	<p>④ 地域づくりに学校の役割が大きいことは理解しているが、再編問題で優先して考えるべきことは子どもたちの学習環境である。中学校教育が子どもたちの将来に与える影響を優先して考えるべきである。</p> <p>⑤ 再編して新しい中学校で学習環境を整えても、小学校教育がしっかりできていなければ効果は得られない。金川校区は、地域が子どもたちの育成に強い関心を持っているので、小学校での教育と地域活動にさらに力を発揮してほしい。</p> <p>⑥ 金川校区は全国から視察が来るほど早い段階から小中学校が連携して行事に取り組んできた。このような取り組みを続けたいという考えがあり、再編問題を金川に持ち込んでほしくないという意見が出たのだと思う。</p> <p>⑦ 金川校区が地域づくりのモデルとして視察を受けていることは聞いている。その地域の力を新しい中学校と地域との関係づくりに使ってほしい。</p> <p>⑧ ほとんどの説明会場に足を運んだが、再編に対する考え方は、地域によって違いがあることを感じた。学校を核にした地域コミュニティの問題を優先して考える地域と、学校教育の課題を優先して考える地域があり、その違いが再編問題に対する地域の温度差に表れていると思う。</p> <p>⑨ 金川校区の熱心な取り組みも大事にしたいが、子どもたちの充実した学習環境をどう実現させるかが課題だ。</p> <p>⑩ どの校区でも学校再編を議論すると、地域コミュニティや校区活性化協議会のことを問題にするが、再編に最も影響を受けて、それに順応しなければならぬのは子どもたちである。子どもたちが新しい中学校に通うことになれば、地域の方が新しい学校の体制に合わせて協力していけるように働きかけていく必要があると思う。</p> <p>⑪ 新しい中学校に通う予定の小学校間で交流を増やしたり、開校の2、3年前から校区活性化協議会間で交流行事を行ったりする仕組みをつくっていく必要がある。</p> <p>⑫ 再編すると校舎を新築したり改築したるする必要が生じるので、財政上の問題も生じる。過疎債等を見据えて、費用が措置できる間に取り掛かる必要があるのではないか。</p>
<p>[審議資料 2] 求められる合意 形成の過程</p>	<p>【事務局の説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再編に納得できるか否かは、学校の教育環境だけでなく、子どもや保護者の実生活がどう変わるかが大きくかわる。特に中学生以下の子どもがいる保護者は、子どもが再編の対象学年となるか否かが議論の出発点となる。 保護者は、再編の効果や期待と、再編による負担や不安の両面から再編の必要性を考える。そのため、次回の説明会では「いつから」「どこに」「どんな」学校ができるかを説明してほしいという要望が相次いだ。 地域や保護者は、計画の具体的な内容が決まる前に説明会が開催されることを望んでいる。審議会の答申前に説明会を開催するのか、答申後に開催するのかを、それぞれの懸念事項を踏まえて審議していただきたい。 <p>【委員の質問・意見】</p> <p>① 今までの経緯を考えると、答申前に中間説明会を開いた方が、住民の皆さんにとっては理解しやすいのではないかと。ただし、審議委員が厳しい立場に立たされることを覚悟しておく必要がある。</p>

審議事項	審議内容
	<p>② 船尾小学校と弓削田小学校の統合のときは、最初に新聞に出た際に住民が何も知らされていなかったのもので、反発が強かった。説明を受けた後に新聞に掲載されたのであれば、反応は違ったと思う。</p> <p>③ 猪位金学園が小中一貫校になったことについて、今になってなぜ猪位金だけなのかと言う声がある。周知が図られていなかったことを改めて感じる。今後も説明会は必要だと思う。視察で見た適正規模校の運営状況を、今後のビジョンとして目に見える形で示せば、住民の皆さんの考えも変わるのではないか。</p> <p>④ 1回目の説明会で住民から複数回の説明会開催を要望された。次回、答申前に1度説明会を開催して審議会の情報を一定程度出してはどうか。その際に色々な課題に対して選択肢を示すなどして反応を伺い、その次の説明会を答申前に開催するか後にするかを考えればよいのではないか。</p> <p>⑤ 最終答申は3月を目標としているので、11月か12月頃に大まかなプランで説明会を開催してはどうか。</p> <p>【事務局の回答・意見】 ※番号は委員の質問番号に対応</p> <p>⑤ 各委員の意見は、答申前に説明会を開催した方が良いということなので、本日の時点では、答申前に情報提供を行うということを決めていただき、今後の議論の流れの中で説明会の時期を判断していただきたい。</p> <p>【決定事項】</p> <p>次回説明会は、答申前に開催する。時期は財政的な裏付け等の議論を詰めながら、答申の直前なのかもう少し前の段階なのか、議論の進捗状況から見極めていく。</p>
次回会議について	<p>【事務局説明】</p> <p>次回会議は、本日予定していた議題が残っている。それに加えて次回の審議事項の資料を作成しなければならないので、会長と日程調整をして連絡したい。</p>